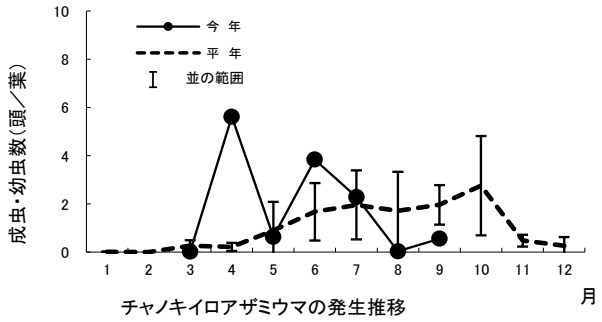
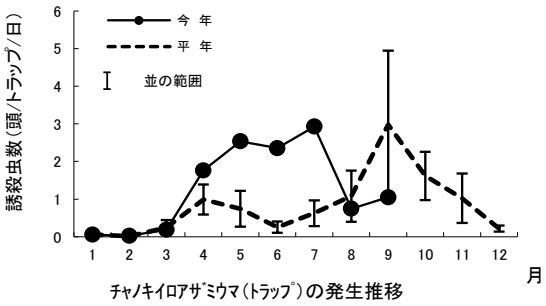
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
9 月の発生量（現況）	やや少		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、9月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



チャノキイロアザミウマの発生推移



ﾁｬﾉｷｲﾛｱｻﾞﾐｳﾏ（ﾄﾗｯﾌﾟ）の発生推移

- 調査地域：石垣市
- 新葉あたり成虫・幼虫数（頭/葉）：0.6（前年0.8、平年2.0、判定「やや少」）
- 黄色粘着トラップ誘殺虫数（頭/日）：1.1（前年1.6、平年2.8、判定「並」）

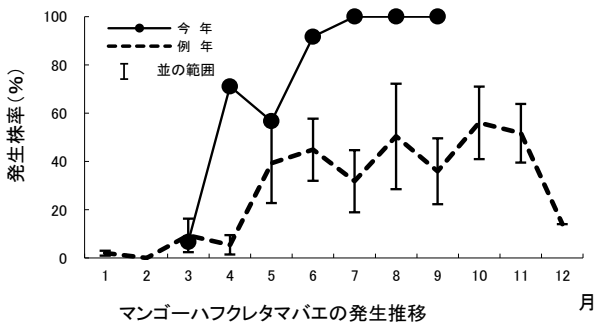
防除のポイント

・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

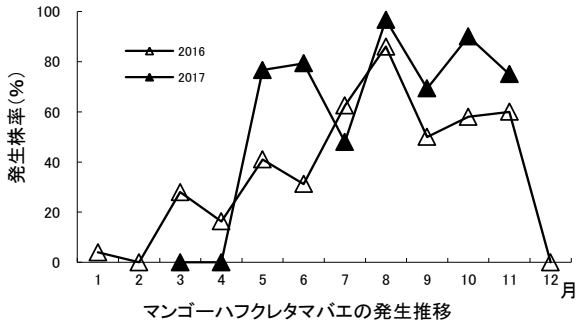
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
9 月の発生量（現況）	多		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の例年の発生推移から、９月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

・　調査地域：石垣市
・　発生株率（%）：100（前年69.3、例年35.9、判定「多」）

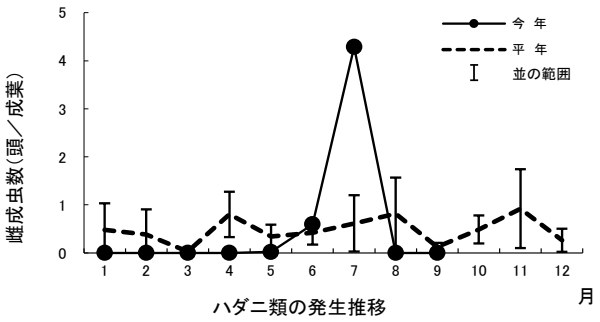
防除のポイント

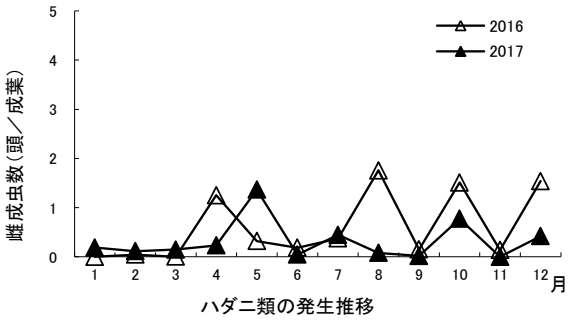
・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。
・翌年の着果枝となる新梢が加害されると減収につながるため、多発施設では、せん定終了後に薬剤による防除を行う。せん定枝は施設外に処分する。
・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	八重山群島
病害虫名	③ ハダニ類		
9 月の発生量（現況）	(発生なし)やや少		
10 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、９月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）





・　調査地域：石垣市
・　成葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0（前年0.1未満、平年0.1、判定「やや少」）
・　新葉あたり雌成虫数（頭/葉）：0.1未満（前年0.1未満）

防除のポイント

・晩秋にかけて発生が多くなるので、発生ほ場では早期発見・防除を行う。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。